

アントニアデ氏の火星観測

中 村 要

去る八月衝に際し有名なる火星観測者アントニアデ氏は一九〇九年と同じくムードン天文臺三十二吋屈折を利用して観測し其結果は毎月發表された。

六月中には殆んご見るべく結果なく描畫も詳細を缺く、七月視直徑の増大と共に描畫複雑となり、八月始めには有力なる結果が得られた。しかし描畫は同氏一流の火星外觀に甚たよく似たる自然的の外觀にて京都に於ける筆者の結果及びローエル天文臺の寫眞とよく一致せり、極めて忠實なる描畫なれど三十二吋の大口徑を使用せる效果殆んごなく筆者が京都に於きて六時半及び七時の示せる一部が多少分解せる外一般に惡きシーイングの影響の爲め模様不鮮明にて火星表面學上殆んご産物なく一般の結果は一九〇九年に比し不良なり。

運河は不鮮明且つ太きものとして多數観測され其の位置は京都の結果と似たり。

今年に於ける同氏の観測は大口徑が惡きシーイングの爲め三十二吋の口徑も十吋と火星研究上何等の差なきを感じしむジュビシー天文臺の火星観測

多年火星の研究に盡力せる同天文臺にては今年もフランマ

リオン及びクイニハセ氏によりて観測さる。フランマソオン氏の描畫は以前と同じく餘りに良好なるものに非らるがクイニッセ氏のものは火星の外觀とよく一致せり。但し餘りに有力なるものには非ず。

リック天文臺の火星観測

今夏リック天文臺の三十六吋を利用して極めて有力なる観測が「Friedrich」氏によつて得られた。其の描畫は最も良好なるもので甚だ多數の運河が観測された。運河の中は比較的細い。ユングフラウ峰の観測

アルプス山脈中の高峰上に今夏火星観測の爲め「Solfer」及び「Collier」兩氏の努力により天文臺新設され其の備品は總てシエール氏（ス、ス、ゼネバの光學器械師）の製作にかゝり屈折は口徑九吋四分の三、にて反射鏡は口徑二十四吋カセグレン式のものにて時計無しの赤道儀となり居れり、良好なる結果得られたる由なるが一萬呎以上の寒氣甚だしき高峰上此種の観測を行ふ學者の苦心と努力は驚くべきものなり。

京大天文臺の新反射鏡

京大天文臺にては三階に川崎造船所の手によりて直徑三十

尺の廻轉ドーム、を新設中なるが右ドーム二十四吋の反射鏡を收容し得る面積に設備を有するが費用の都合上十三吋反射赤道儀にされ、十三吋は渡歐中の山本助教授の手にて購入され三月同氏の歸來と同時に到着の筈なり。十三吋は英カルバー製なり。十吋級の反射鏡に獨歩の腕前を有する有名なるカルバー鏡なれば立派なるものなるべし。

ハーセルの反射鏡

ハーセルがニュートン式反射鏡の眞の開拓者であり現在の反射鏡の基なる事は言ふまでもなき事である。ハーセルが父子數十年間製作せる鏡の數は三千以上にも登るこの事なるがハーセルの殘せる作品が最近數名の學者により研究され發表された事は興味多い事である。ハーセルの多年觀測せる Slough に於て殘留せるものは可なり數多い。

四十呎反射鏡 ハーセル最大の作品である四十八呎鏡は殘存されて居るが金屬鏡の事にて表面は甚だ曇つて居る。光學的性質は研究されてない。

二十呎反射鏡 此の十八吋はすでに前の天界に於て説明したか木筒及び三個の鏡の内一個が殘存して居る。鏡形は可なり著しい双曲線であるがジョンハーセル氏の使用せる星雲星團の觀測には殆んど差支がない筈である。

七呎反射鏡 器械全部完全に殘存して居る。鏡は口徑六・二吋焦點距離 七呎三吋あり。帶試驗によれば鏡面は極めて平

且全然不規則なる部分無く鏡形極めて良好である。但し僅かに Under Correct されて居る。三三四の倍率にて實視せる所によれば現代の完全なる鏡にても稀らしきデフラクシオン輪ミ圓盤像を示す。

雜鏡及び平面鏡

口徑三吋乃至九吋の十二個の鏡が殘つて居るが内四個はウイリアムハーセル氏の手によつて封せられ一九二四年五月に至る約一世紀も封ぜられて居つたが開函の際には殆んど曇りがなかつた。短焦點の二個の外十個フーマー試驗によつて現代のものは一つも無い。Over Correct されたもの或は不規則な帶を持つたものがある。

平面鏡は計三十もあり七呎鏡等に使用されたものである。

接眼鏡

合計四十八個あり焦點距離は〇・〇一二吋乃至二・六吋である。

此の外種々雜多なものが殘つて居るがハーセルの作つた鏡がフーコーの影及び帶試驗によつて現代の鏡の程度を考えて經驗によつて作つた同氏の鏡が良好である事を證せられたのが拿い產物である。

正誤

三月號月火ロマリステレスの二重運河の圖は二月號の火星の大シルチスの變化の圖の誤なり。